

## 後藤新平・斎藤実 奥州水沢の偉人地域挙げ顕彰



生家で初めて開かれた後藤新平生誕祭。地元子ども会の代表が先人を見習い努力することを誓った



後藤 新平



斎藤 実

南満州鉄道初代総裁や東京市長などを務めた後藤新平(1857-1929年)と、元首相の斎藤実(1858-1936年)が、来年と再来年に生誕150年を迎えるのを前に、出身地の岩手県奥州市水沢区で顕彰の動きが活発になっている。4日には同市吉小路の後藤新平生家で初めての生誕祭があり、関係者が「国内外の情勢が複雑化する今こそ、先見の明があった2人の功績を再評価しよう」と語り合った。

明治から昭和初期の政治をけん引した新平と実は「竹馬の友」として知られ、幕末の先覚者高野長英(1804-50年)とともに「水沢の三偉人」として敬愛を集め、市内にはそれぞれ記念館がある。3人が幼少期を過ごした吉小路には「偉人通り」の異名もある。

生誕150年の節目に2人の業績を顕彰しようと今年2月、合併前の旧水沢市や民間団体などが「後藤新平・斎藤実 生誕150年記念事業実行委員会」を設立した。今後4年間にわたってさまざまなイベントを開催することを検討している。

その一環として、初めて生家で行われた「後藤新平生誕祭」には約50人が参加。実行委会長の相原正明市長が「先人の精神を生かし、新市の発展に取り組みたい」とあいさつした。

新平の孫の健蔵さん(75) = 東京都在住 = が寄せた「祖父も感激しているだろう。若い人材の育成を願っている」というメッセージが紹介され、吉小路子ども会の渡辺香奈妙さん(11) = 水沢小6年 = が「偉大な先輩のようになれるよう、努力していきます」と誓った。

実行委は本年度、記念事業の企画を詰め、ポスターなどを作りPRに力を入れる。9月22日には市文化会館で、新平が社名を命名したといわれるシチズン時計の梅原誠社長(花巻市東和町出身)を招いた講演会を開催する。

実行委副会長で後藤新平顕彰会の梅森健司会長は、「時代を見据えて休む間もなく働いたのが新平や実だ。その業績を振り返り、次の時代を担う人間を育てていくきっかけにしたい」と記念事業の意義を強調している。